アクティブ・ラーニングなんてこわくない！
児童・教師・地域で創る総合的な学習

～「私たちの街を再発見！大好き橋本！」の実践を通して ～

相模原市立旭小学校　荒木　昭人
進藤　智子
多田　実恵

Ⅰ　はじめに

文部科学省は、昨年度 11 月に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を発表した。その中に、「アクティブ･ラーニング」という言葉が見られる。

このアクティブ・ラーニングは、指導要領の次期改定に向け、重要なキーワードになることが予想されている。では、この「アクティブ・ラーニング」という言葉が出てきたことで、学校教育、とりわけ小学校教育は大きな変革のときを迎えるのだろうか。

前述の諮問文の中には､「課題の発見と解決に向けて主体的･協働的に学ぶ学習」の一例として、アクティブ・ラーニングが紹介されている。また、このアクティブ・ラーニングは、「能動的学習」とも訳される。ここである一つの疑問が生まれてくる。これまでの教育活動にアクティブ・ラーニングは存在していなかったのだろうか。

私たち教員は、児童が主役の「学びたい」という思いを大切にした児童主体の授業を、常にめざしている。ここで言う児童主体の授業とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業は、軌を一にしたものだと考えると、この疑問は解消されてくる。

そこで、本実践はアクティブ・ラーニングの旗手と言われている総合的な学習の実践を通して、児童主体の学習活動を行い、児童の学びと変容を分析することで、アクティブ・ラーニングの価値や有効性に迫っていくこととする。

Ⅱ　実践の概要

（１）対象

相模原市立旭小学校　第５学年

（２）単元名

「私たちの街を再発見！大好き橋本！」

（３）単元の目標

○体験や交流活動をもとに、自ら課題を見付け追究したことを表現する。
○ふるさとである橋本に対する思いを深め、根拠をもとに自分なりの考えをもつ。
○友達との意見交流を通して、橋本の街に対する見方や考え方を広げる。

（４）単元の指導計画

	主な学習活動
一次	・課題の設定 ・街頭調査 ・七夕祭りについて調査 ・橋本七夕祭りへの参加
二次	・七夕祭りへの参加を振り返り、次の課題を設定 ・「リニアモーターカー」について知る。 ・橋本にできるリニアの駅について調べ、報告会を行う。
三次	・橋本について考え、地域の方や区役所の方と橋本について話し合う。 ・これまでの学習をふり返る。

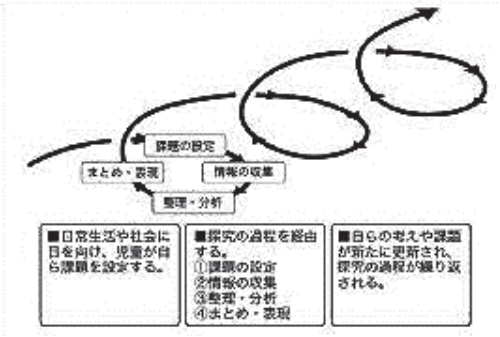
※本論文は、一次の実践をまとめることとする。

Ⅲ　学びを深める手立て

（1）「探究」と「協同」を適切に位置づける

総合的な学習における最も重要なキーワードは「探究」と「協同」である。この２つは、両輪となって児童の学びを支えていく。とりわけ、「探究」については、指導要領解説にスパイラルの図が示され、その４つの過程が明記されている。（【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】）

本単元では、総合的な学習の時間の肝である「探究」と「協同」を適切に位置づけることによって、児童の学びを支えることとした。



〈探究のスパイラル図〉

（2）児童の主体性を大切にする

本校の児童は、落ち着きがある一方で、主体性に欠ける傾向がある。例えば、教科の学習の中で、答えが明確になりやすい内容に関しては、多くの発言が期待できるが、総合的な学習の時間のように、明確な答えを出すのが難しい内容に関しては、発言する児童もかなり限定されてしまう。

そこで、教師が事前に計画を練る等、教師が先回りしつつも、児童が気がついたことを交流しながら、活動の計画を立て、「こんなことをしてみたい！」という願いを大切にし、「私たちの総合的な学習の時間なんだ」という意識をもたせることを大切にした。そうすることで、主体的に探究を繰り返す児童が育ち、明確な答えを出しにくい内容の学習であったとしても、試行錯誤しながら、何とか答えを出そうとする姿が見られるようになるのではないかと考えた。

（3）思考ツールの活用

思考ツールを活用することにより、他者の考えを可視化したり、ある事象について多面的に考えたりするなど、様々な活用方法が考えられる。

必要に応じて思考ツールを活用することで、体験活動で獲得した学びを整理し、自分に必要な形に磨き上げることができる。

体験活動と情報を整理する活動を組み合わせながら、質の高い学びをはぐくむことができるようにしていく。

（4）人材の活用

児童にとって、地域に住んでいらっしゃる方々は「近くて遠い存在」であるように感じている。同じ地域に住んでいながら、なかなかかかわりをもつ機会がないのが現実である。

そこで、地域に住む方や地域の発展に尽力されている方にスポットを当て、学習に関わっていただくことにした。

例えば学校評議委員として、本校の教育活動にかかわってくださっているＨさんは、昔から橋本に住んでいる方で、地域のことに詳しく、地域の方との強いコネクションをもっていらっしゃる。また、元教員でもあるため、私たち教員の意図を汲んでくださることも大きい。そのため、このＨさんにコーディネーター的な役割をお願いし、ゲストティーチャーの紹介や学習に対するアドバイスをお願いすることにした。

Ⅳ　授業の実際と児童の姿

（1）単元の立ち上げ【課題の設定】

本単元では、「単元を自分たちで創る」ということを大切にするために、取り扱う題材全てをこちらから提示するのではなく、大テーマが「橋本の街」ということだけを知らせ、そこから児童自身が課題を発見し、追究していくという形をとった。そこで、まず課題を

設定するために、「橋本周辺探検」に出かけることにした。

その探検の中で、児童が気がついたこととして挙げたのは、

①橋本には自然が少ないので、橋本の自然や生き物について調べてみたい。
②落書きがとても多いのが気になったので、それを減らしたい。
③橋本には人がたくさん来ているけど、何をしに来ているのか知りたい。
④お店や橋本商店街全体をＰＲしているパンフレットが貼ってあった。どんな人が出版しているか調べてみたい。

というような内容だった。その中で、教師の想定としては、③や④のような考えが多く出てくると考えたのだが、①や②のような意見も多く見られた。ある児童は、このような振り返りを書き、迷いが生じていることがうかがえた。

探検した後、課題にしたいことを出し合ったけど、バラバラだった。3年のときに川のことを学習して生き物について興味があるけど、落書きも気になった。お店のこともっと知りたいし…。

でも駅の近くは「都会」って感じがするけど、少し離れると自然もある不思議な町だってことがわかった。

そこで、全体で共通の課題設定をするために、話し合いを行うことにした。

（２）話し合い①【課題の設定】

何度か話し合いを重ねる内、課題が３つに絞られた。「環境」「自然と生き物」「よりよい街づくり」という３つである。

最終的に、どういう形で課題を設定していくかを話し合っているときに、クラスのＡ児が「せっかく橋本のことを学習するのだから、橋本に住んでいる人や橋本駅を利用している人に聞いたらいいんじゃないか」という意見を出した。児童は全員一致で、その意見に賛成し、街頭調査にでかけ、地域の声に耳を傾けることになった。ある児童は、このＡ児の発言について、振り返りにこう記していた。

Ａ児さんが「地域の人に聞けばいい」という意見を言ったとき、「なるほど！」と思った。地域のことを学習するんだから、地域の人に聞くのが一番よいと思う。

今回のＡ児の発言は学習活動の広がりだけでなく、「地域の『人』」への意識の高まりを生んだ。この発言をきっかけに、児童は常に「地域の人」を意識し、学習を進めるようになった。

（３）街頭調査【情報の収集】

話し合いを受け、街頭調査を行うことになった。駅周辺で調査を実施するということもあり、質問の数を絞ることにした。

用意した質問は、

①橋本に住んでいますか。
②橋本について知りたいことはどんなことですか。
③橋本にどんなイメージをもっていますか？
④「橋本と言えば…」と聞かれたら、何と答えますか。

という４つである。

インタビューは、次の結果になった。

Ｑ１橋本に住んでいますか。
はい（53人）
いいえ（60人）
(橋本勤務、買い物、電車バス乗り換え等)

Ｑ２橋本について知りたいことはどんなことですか。
Ａグルメ、リニア、未来、七夕まつり、お店、歴史、福祉、防災等（★生き物は回答なし）

Q３橋本にどんなイメージをもっていますか？
A 都会、緑が多い、買い物、交通の便がいい、店が多い、大きく変化した、きれいな町等

Q４「橋本と言えば…」と聞かれたら、何と答えますか。
A リニア、七夕まつり、大型商業施設、温かい町、わからない等

各クラス、100 人前後の方々に話を聴くことができた。街頭調査後、結果を黒板に整理し、気がついたことをまとめた。

街頭調査後に、こんな振り返りを書いている児童がいた。

今回の街頭調査はとてもよい経験になった。断られたりもしたけど、ていねいに答えてくれた人にありがとうを言いたい気持ちになった。

ぼくは生き物のことを調べたかったけど、「生き物のことを知りたい」と答えてくれた人はいなかったみたいだ。もしかしたら違うことをテーマにした方がいいのかも…。

今回、街頭調査を行ってよかったのは、上記の振り返りのように、「このテーマでやりたい！」という思いが薄れ、「本当にこれでいいのか？」という迷いや、「地域の人のためになることは何だろう？」という他者意識が生まれたことだ。

このような「気づき」を大切にしてほしいという願いをもちつつ、話し合いにつなげることにした。

（４）話し合い②【整理・分析】

街頭調査の後、課題を整理していくための話し合いを行った。調査で気がついたことや気になったことを出し合っていくうちに、質問③の「橋本と言えば…と聞かれたら何と答えますか」という質問に対して、何人かの人が「わからない」と答えたことが、話し合いの話題に上がった。

～街頭調査後の話し合い(抜粋)～

A児　街頭調査をしたときに、③の質問に「わからない」と答えた人がいた。それがとても気になった。

B児　私が聞いた人も「わからない」と答えた人がいた。橋本ってあまり有名じゃないのかなと思った。

C児　橋本は横浜線、相模線、京王線と３つ路線があるから、乗り換えが目的なのかもしれない。

教師　橋本は有名じゃないのかな？

D児　すごく有名ってわけじゃないけど、リニアのことでニュースにも出たし、少しは有名なんじゃないかな。

E児　七夕祭りも、アリオもけっこう有名だと思う。

F児　橋本をもっと有名にするために、何かするのがいいんじゃない？

E児　たくさんの人たちがインタビューで答えてくれた七夕まつりとかリニアをテーマにするのが一番いいんじゃないかな。

（５）調べ学習【情報の収集】【整理・分析】

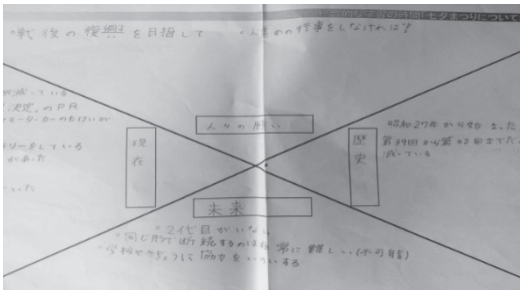
話し合いを通して、「橋本をもっと有名な街にしたい」という課題意識をもったことで、1学期は「橋本七夕まつり」について調べ、自分たちにできることを探っていくことにした。

この七夕まつりは、今回で６３回目を迎え

る伝統あるものである。地元で開かれるお祭りであるため、児童はとても楽しみにしているが、お祭りの背景にある歴史や主催者側の願いや苦労などについては全くといっていいほど知らない。

そこで、調べ学習を行い、七夕まつりのルーツや祭りに関わっている人々の願いを調べることにした。家族や地域に住んでいる方へのインタビューや、記念誌の活用など、偏った情報になるではなく、幅広く情報を収集することを目的とした。

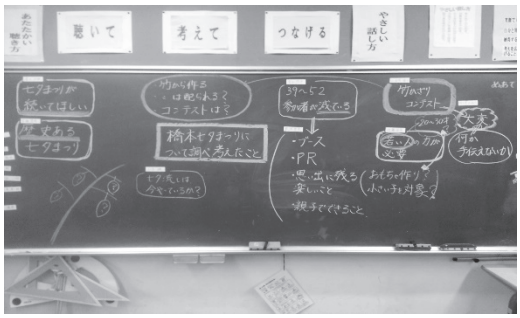
さらに集めた情報を【整理・分析】する作業にも力を入れた。次の写真のように、思考ツールを活用し、七夕祭りを多角的に見つめ直すことも大切にした。ここで活用したのは、「X チャート」というツールで、１つの事象を４つの異なった視点で分析するものである。



今回は、「人々の願い」「歴史」「未来」「現在」という４つの視点で、調べ学習を行った。まとめる段階でも、情報交換のための交流が自然に生まれ、友達と協力しながら【整理・分析】を行う姿が見られた。

（6）話し合い③【整理・分析】【課題の設定】

調べ学習を通して、気がついたことを出し合い、今後の活動について考える話し合いを行った。



～調べ学習後の話し合い(抜粋)～

A児　七夕まつりのスタートは古くて、「戦後の復興をめざす」という地域の人の願いから始まったらしいよ。

B児　調べているうちにわかったのは、七夕まつりへの参加者が減っていること。「大丈夫かな？」と心配になった。

C 児　心配という部分でつながるんだけど、祭りを支える実行委員会っていうのがあって、若い人があまりいないという話を聞いたよ。

D 児　七夕まつりの記念誌にもそういう情報が書いてあって、「若い人の力が必要」ってことが載っていた。

E児　近所のお店で聞いてきたことなんだけど、「お店の２代目がいなくて、七夕まつりに参加するのが大変」らしい。

F児　昔は、学校や企業に祭りを盛り上げる協力をお願いしたけど、最近はあまりやってないらしいよ。

教師　七夕まつりの課題がたくさん出てきたね。C児さんの話の中に、実行委員会っていうのが出てきたけど、今の実行委員さんも困っているのかな？

児童　うーん、どうなのかな…。

G 児　ぼくのおじいちゃんが今の実行委員長さんのこと知ってたよ。名前は…

話し合いの中で「実行委員」というキーワードが出てきたところで、次の活動につなげていく予定だったが、実行委員長さんのことを知っているG児の発言もあり、予想よりもスムーズに児童の注目が「実行委員会」の存在に向いていくこととなった。

そこで、児童に対して「実行委員さんのお話を聞いてみませんか？」という提案をしたと

ころ、「ぜひ聞いてみたい！」ということになった。すでにこのとき、前述の学校評議委員Hさんに事前に相談し、七夕まつりの実行委員長であるＩさんと連絡を取り合っていたところだったので、児童から実行委員の存在が出てきたこのタイミングで切り出すことができた。

（７）実行委員さんの話【情報の収集】

七夕まつりの実行委員さんをゲストティーチャーとしてお招きし、主催者側の願いや悩みをお聴きすることにした。特に実行委員長さんであるＩさんから、「今、自分たちは祭りを預かっているだけ。次の世代につないでいかなければいけないと思っている」という話があった。

さらに、他の実行委員さんから「お祭りの時に飾る七夕かざりを作ってみませんか？」という提案があった。七夕かざりの写真や実際に飾りをとりつける笹を見せてもらい、児童は俄然やる気になった。

（８）話し合い④【課題の設定】

実行委員さんから「各クラス１本ずつ笹を使ってもらいます。飾り付け作成をお願いしますね。」という話を聴き、クラスごとにテーマ決めをすることにした。

教師が想定した以上に、テーマを決める話し合いは盛り上がった。

～テーマ決め２回目の話し合い(抜粋)～

A児　いろいろ意見が出てきたけど、私は緑区のゆるキャラであるミウルを使うのがいいと思う。みんなに知られているから、注目されるんじゃないかな。

B児　僕も賛成。小さい子には興味をもってもらえると思うな。

C児　みんなすごくミウルにこだわっているけど、こだわりすぎる必要はないんじゃない？PR に有効だっていうのはわかるけど、それだけじゃない気がするな。

D児　確かにそうだと思う。こだわりすぎる必要はないね。でも PR に有効なのはあるから、候補には入れておいていいと思う。

E児　子ども向けという意味ではミウルを使い、大人向けにはリニアを使うっていう作戦はどう？

今回の話し合いでは、友だちの意見を受容しつつ自分の意見を主張する姿や、複数の意見をまとめて提案する姿が見られた。まさに「探究」と「協同」が両輪となり、一つの授業の中に学びが生まれた１時間だったように思う。ある児童は、この話し合いをこうふり返っていた。

今日の話し合いは、みんなが意見を聴き合い、話がつながっていった。とても面白かった。どんどん話が進んでいって、私は意見を言えなかったけど、「勉強した！」という気持ちになった。

この話し合い以外にも何度か話し合いを重ねた結果、２つの飾りを作成することに決定し、「橋本の未来」と「橋本の七夕」という２つのテーマで飾りを作成することになった。このテーマに「橋本」という言葉が入ったことか

らも、児童の意識が地域に向き始めたことがわかる。

（9）竹飾り製作【まとめ・表現】

上の写真は、自分のデザインをプレゼンしている様子である。各自で作成したデザインカードを持ち寄り、それを何度か繰り返すことで、候補を絞っていった。

また、そこで決めたデザインをもとに、七夕飾りを作成していった。児童にとって初めての経験であり、最初は戸惑いながらの活動だった。私たち教師も手探りの状態であったので、実行委員の方と連絡を取り合って活動を進めていたところ、「お手伝いに行きましょうか？」という提案をしていただき、お願いすることになった。

そして出来上がったのが写真の２つである。

橋本に多くの人に来てもらいたいという願いをこめて、多くの人が天の川にいる様子や、リニアやミウルのイラスト、「未来に残そう七夕まつり」というメッセージを書き記すなど、これまで学習してきたことを、七夕かざりを通して表現することができた。

作成した飾りは、七夕まつりの前日の取りつけ作業となったため、夏休み中の作業となった。残念ながら、学年全員が参加することはできなかったが、自分たちの飾りがついた竹が立てられたときには自然と拍手が起こっていた。

Ⅴ　成果と課題

（1）成果

本実践を終えた児童の振り返りである。

> 私が思っているよりも、七夕まつりの歴史は奥が深いと思った。今まで自分が住んでいる橋本に自慢できるものなんてないと思っていたけど、こんな素晴らしい祭りがあることに気がつけてよかった。今までよりも橋本が好きになった気がする。

> 七夕祭りに行って自分たちが作った飾りを見たとき、「やった！」と思った。今回は実行委員の人たちにすごくお世話になったけど、自分も地域の祭りのために活躍する実行委員さんのようになりたいと思った。大人になったらなれるかな？

児童の振り返りを読んでいて見えてきたのは、「自分自身を見つめ直した姿」だった。こ

れは総合的な学習の時間の目標である「自己の生き方を考える」という部分につながるものではないだろうか。アクティブ・ラーニングを意識することによって、確かな学びが達成された姿と考えられるのではないだろうか。

もう一つ、成果としてあげたいのが、児童の学びの実感である。実践前後に、「総合的な学習でどんな学力がつくと思いますか？」という質問をしたところ、このような変化があった。

総合でつく学力の具体

実践前に挙げられた「学力」
・調べる力　・まとめる力　・発表する力

↓

実践後に挙げられた「学力」
・計画する力　・コミュニケーション力
・地域とふれあうことのできる力
・聴く力　・協調力　・対応力
・知らないことを知るためにがんばる力
・考え、それを実行する力

実践前に児童からあがったのはたったの３つだったものが、実践後には多くの「学力」があげられた。「考え、それを実行する力」をはじめ、今後社会で必要とされる力が身についたということを、児童自身が実感できたということが、本実践における大きな成果なのではないかと考える。

（２）課題

本実践は、児童の学びが「壁」にぶつかることなく、スムーズに進んだ印象がある。流れだけを見ると、児童に混乱もなく、計画通りに進んだというとらえもできよう。しかし、児童が流れの中で「壁」にぶつかり、乗り越えようとするところで生まれる学びもあるのではないだろうか。そこまで意図的な演出ができることも、教師としての力量なのだと感じている。総合的な学習の時間ならではの、カリキュラムマネジメントについて、改めて考えていく必要があるように思う。

Ⅵ　おわりに

「自分たちが考えたことがちゃんと実現するなんて…。ここまでできると思わなかったな」ある児童が、飾り製作に取り組んでいる際、嬉しそうにつぶやいた言葉である。私にとって、この言葉が忘れられない。

本稿の冒頭で、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」の一例が、アクティブ・ラーニングだと紹介した。本実践は、まさに児童の主体性を大事にし、課題と発見と解決の過程を重視した、アクティブ・ラーニングの実践へと置き換えることができる。その本実践において、児童が確かに学んだ姿が、アクティブ・ラーニングの魅力だと考えられるのではないだろうか。

しかし、こうも考えられる。アクティブ・ラーニングはあくまで「学習方法」である。「何を学び、どんな力がつくか」という部分が、学びの「魂」だと考える。新しく出てきた言葉に踊らされ、「魂」を置き去りにしてはならない。

私たちは、アクティブ・ラーニングの重要性が提唱されたことを契機とし、日々の授業実践を見直していく必要があるのではないか。言うまでもなく、見直しの視点は「児童の主体性を重視しているか」ということと、「児童が確かに学び、力がついているか」という２つである。

本稿は、総合的な学習の時間の実践についてまとめたものである。今後は、他教科・領域でも、アクティブ・ラーニングの実践を行い、その価値について追究していきたい。

【参考文献】

・文部科学省(2008)
小学校指導要領解説　総合的な学習の時間

・文部科学省(2014)
初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)